

2014年3月期 決算説明会

2014年5月12日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 山下 正弘



- 2014年3月期 連結決算の概況
- 2015年3月期 主力製品の取り組みについて
- 研究開発パイプラインの状況
- 2015年3月期 連結業績予想と配当

2014年3月期 連結決算の概況

2014年3月期 連結決算の概観

(単位:億円)

	13年3月期 実績	14年3月期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	1,070	1,114	+44	+4.1	-12
営業利益	179	176	-3	-1.9	-6
経常利益	187	183	-4	-2.1	-5
当期純利益	124	120	-4	-3.2	-4

セグメントの売上高の増減(連結)

(単位:億円)

	13年3月期 実績	14年3月期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	1,070	1,114	+44	+4.1	-12
	1,052	1,097	+45	+4.3	-12
医薬品事業	新医薬品	907	+28	+3.1	-16
	国内	883	+34	+3.8	-11
	海外	24	-6	-22.9	-5
	後発医薬品	101	+19	+18.7	+6
	一般用医薬品他	44	42	-2	-4.7
ヘルスケア(スキンケア)事業	19	17	-2	-7.8	0

	売上高の増減のポイント
国内新医薬品	<ul style="list-style-type: none"> フルティフォームの発売等により前年に対して増加したものの、予想に対してはフルティフォーム、ムコダインが未達 ロイヤリティ収入(アイファガン)の増加 キョーリン製薬グループ工場(株)の売上が年間寄与し、前年に対し増加
海外新医薬品	<ul style="list-style-type: none"> 米国での後発品発売(13年10月)によりガチフロキサシンの売上減少(現地売上:13年3月期実績\$80MM、14年3月期実績\$61MM) 前年は、ベキロン資産譲渡による契約一時金あり
後発医薬品	<ul style="list-style-type: none"> 他社受託ビジネスの拡大、使用促進策等の影響による卸店ルート(保険調剤薬局)の売上増加

損益の概要(連結)

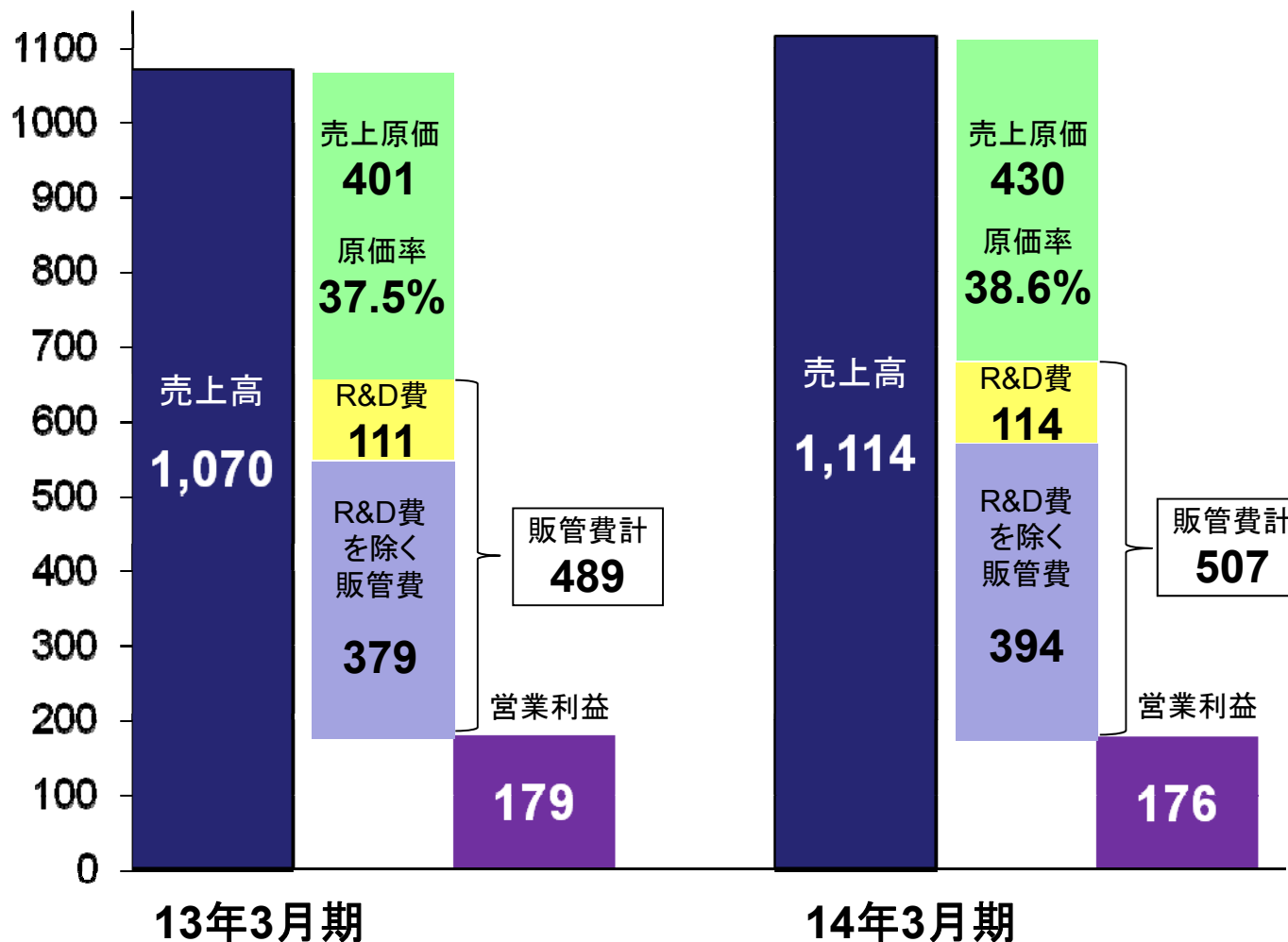
(単位:億円)

	13年3月期 実績	14年3月期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	1,070	1,114	+44	+4.1	-12
売上原価	401	430	+29	+7.3	-
販売費及び一般管理費	489	507	+18	+3.7	-
R&D費	111	114	+3	+2.7	-4
販管費(R&D費除く)	379	394	+15	+4.0	-
営業利益	179	176	-3	-1.9	-6
経常利益	187	183	-4	-2.1	-5
当期純利益	124	120	-4	-3.2	-4

	営業利益の増減のポイント (対前年は-3億円、対予想は-6億円)
対前年	<ul style="list-style-type: none"> • 売上が44億円増加したが、原価率が1.1%上昇し、売上総利益が15億円増加に留まった 原価率上昇要因：後発品及びキョーリン製薬工場(株)の売上ウェイトの上昇 • 販管費(R&D費含む)は18億円増加 R&D費は3億円増加(主にKRP-209Ph2aの終了)、販管費(R&D費除く)は15億円増加(販売費、特許等使用料等の増加)
対予想	<ul style="list-style-type: none"> • 売上が予想を下回り、原価率も上昇したため、売上総利益は未達 原価率上昇要因：為替の影響、稼働率の低下等 • 販管費(R&D費含む)は予想を下回る R&D費は4億円減少、販管費(R&D費除く)は削減努力により減少

2014年3月期 業績のポイント(対前年)

(単位:億円)



ポイント①

- 売上高は44億円増加
 - ・国内新医薬品、後発医薬品が伸長
 - ・導出品のロイヤリティ収入の増加
 - ・キョーリン製薬グループ工場の売上寄与

ポイント②

- 売上原価率は1.1ポイント上昇(29億円増加)

➢売上総利益は15億円増加

ポイント③

- 販管費は18億円増加
 - ・R&D費は3億円増加
 - ・販管費(除くR&D費)は15億円増加

営業利益は3億円減少

2014年3月期 主力製品の売上状況

(単位:億円)

	13年3月期 実績	14年3月期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
キプレス	396	402	+6	+1.5	-1
ムコダイン	191	184	-7	-4.0	-4
ペンタサ	176	186	+10	+5.3	+1
ウリトス	75	81	+6	+7.9	+1
フルティフォーム	—	6	+6	—	-4

2015年3月期 主力製品の取り組みについて

マルチ・コア戦略 (MC戦略)

— 医薬品事業を中核とするヘルスケア事業の多核化 —

医薬品事業

ファーマ・コンプレックス・モデル

(PCモデル)



複合的な事業展開

(新薬群、先発品群、後発品群)

ヘルスケア事業

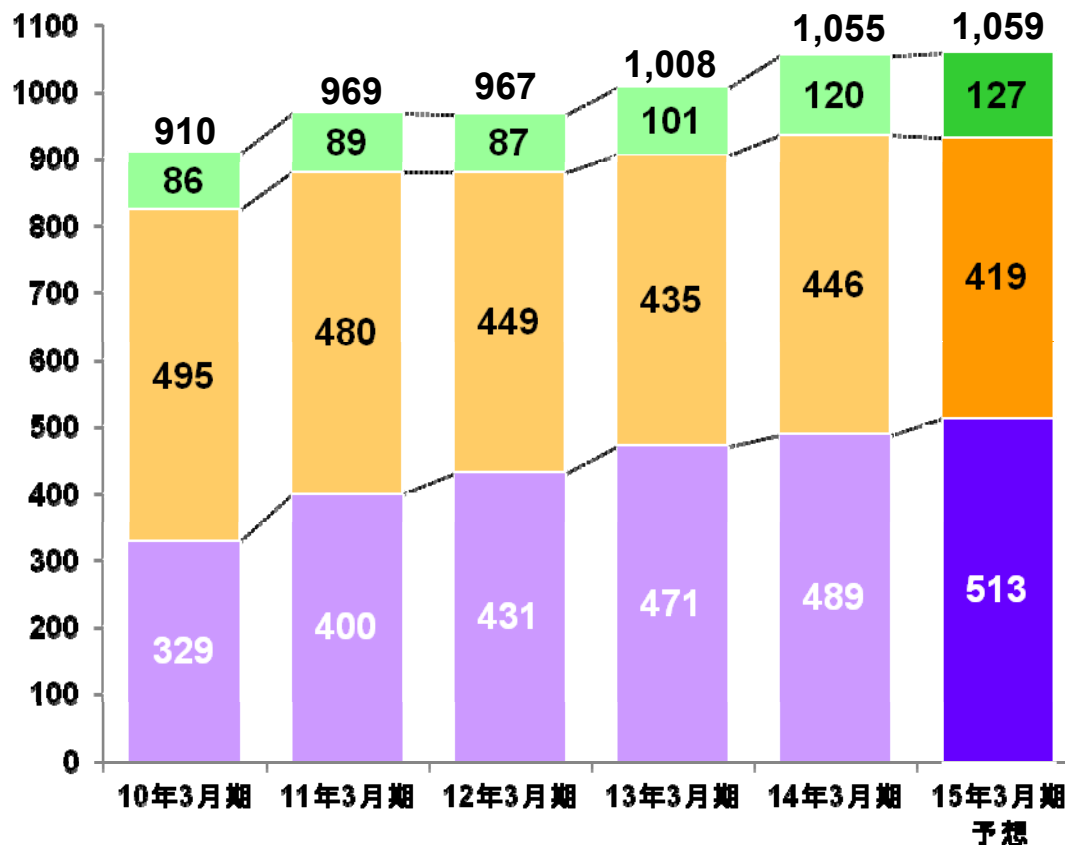
既存事業の育成と新規事業の拡充と育成

2015年度目標
(2016年3月期)

売上高1,400億円 営業利益200億円

- ・医薬品事業 1,200億円 (新薬群500億円、先発品群500億円、後発品群200億円)
- ・ヘルスケア事業 200億円

売上高(単位:億円)



- 新薬群 キプレス、ウリトス、フルティフォーム
- 先発品群 ムコダイン、ペンタサ他
- 後発品群

ファーマ・コンプレックス・モデル(PCモデル)の具体化

■新薬群

- ・主要製品の普及の最大化を図る
(キプレス、ウリトス、フルティフォーム)
- ・開発パイプラインの強化及び開発促進を目指す(KRP-AB1102)

■先発品群

- ・LCMIによる製品価値の向上とライフサイクルの延長を図る
(ムコダイン、ペンタサ)
- ・環境変化に対応し、収益確保を目指した生産のあり方を検討する

■後発品群

- ・国内外のアライアンス推進により原価低減、品揃えを図る
- ・グループ内での連携強化による特色あるジェネリック事業を推進する
- ・他社との主導的共同发展モデルを推進する

※LCM:ライフサイクルマネジメントの略

■新薬群 フルティフォーム(喘息治療配合剤)

➤2013年度の状況

2013年度 (売上: 6億円)

	フルティフォーム50 エアゾール 56 吸入用 フルティフォーム125 エアゾール 56 吸入用	フルティフォーム50 エアゾール120 吸入用 フルティフォーム125 エアゾール120 吸入用
製造販売承認取得	2013年9月	2013年9月
発売	2013年11月	(予定:2014年12月)

➤2014年度の取り組み

2014年度 (売上予想:28億円)

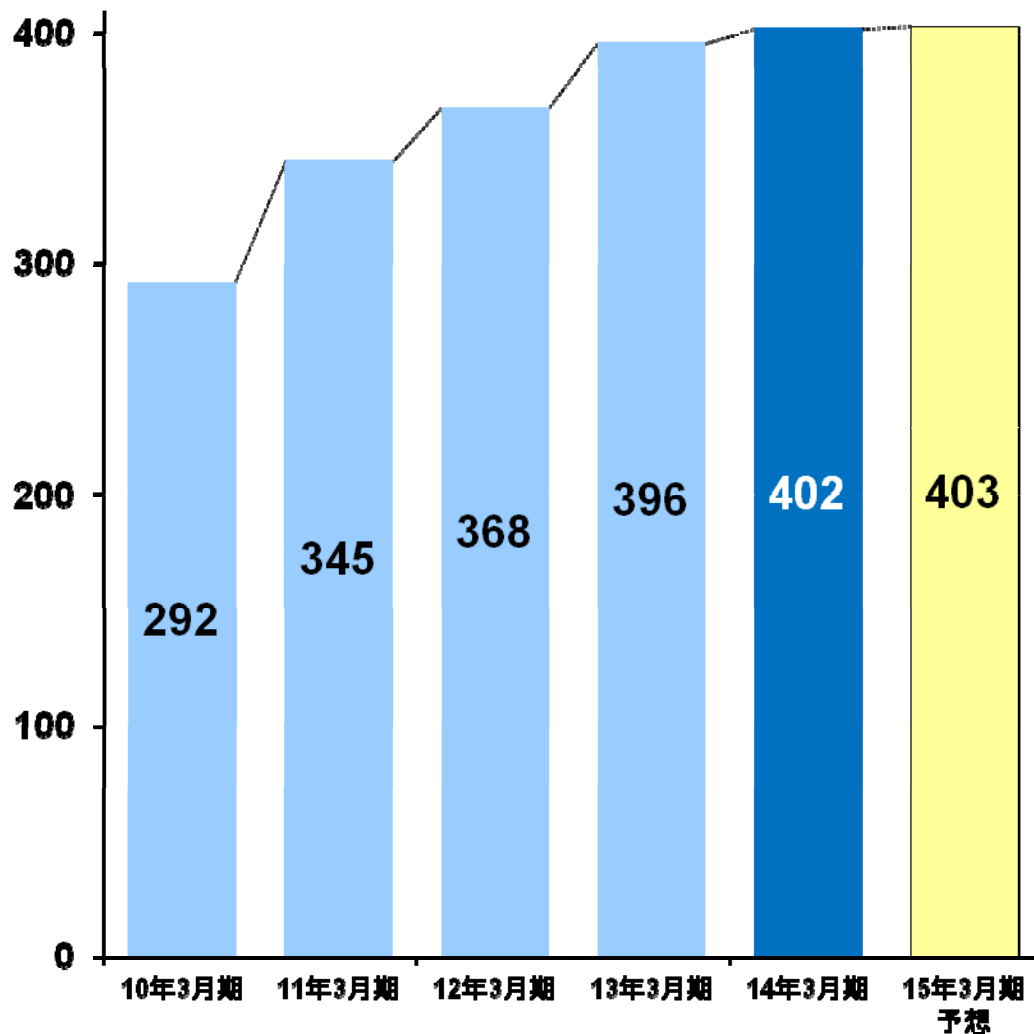
処方制限解除を契機として飛躍的な市場浸透を目指す

- ・30日製剤の発売
- ・喘息コントロールが不十分な患者さんへの処方推進
※長期管理薬を服用していても、60%~80%の患者さん(治療ステップ2~4)はコントロール不十分
- ・pMDI製剤の吸入操作の簡便さを訴求



■新薬群 キプレス(気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)

売上高 (単位:億円)



■2013年度の状況

●ロイコトリエン拮抗剤市場 :約2%拡大

1,251億円(13年3月MAT) ⇒ 1,274億円(14年3月MAT) 注1

●キプレスの売上シェア:

34.9%(13年3月MAT) ⇒ 36.0%(14年3月MAT) 注2

■2014年度の取り組み

●アレルギー性鼻炎での処方拡大

・アレルギー性鼻炎(通年性、季節性)のベース薬としての
ポジショニング確立

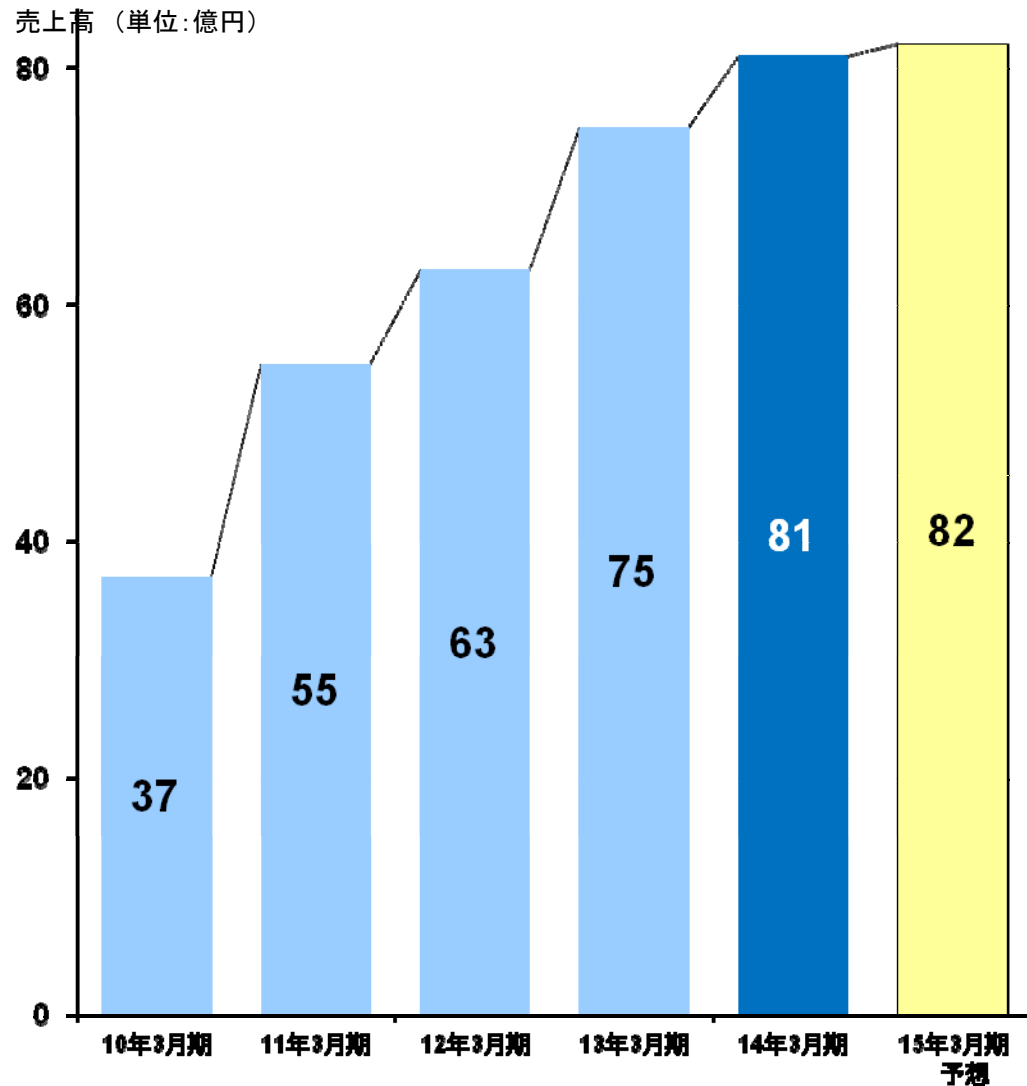
●喘息患者さんへの更なる処方促進

・フルティフォームと併せた処方提案

※薬価改定率(本体薬価ベース)▲7.4%

注1, 2(出典: Copyright 2014 IMS ジャパン(株)IMS -JPMをもとに作成 無断転載禁止)

■新薬群 ウリトス(過活動膀胱治療剤)



■2013年度の状況

●OAB市場 : 約11%拡大

704億円(13年3月MAT) ⇒ 779億円(14年3月MAT) 注1

●ウリトスの売上シェア

11.4%(13年3月MAT) ⇒ 10.9% (14年3月MAT) 注2

■2014年度の取り組み

●潜在市場の掘り起こし

・潜在患者数 約925万人 / 受診率 約30% (2013年度)

●「使い易さ」の浸透

・エビデンスに基づく処方提案(BPHを有するOAB患者)等

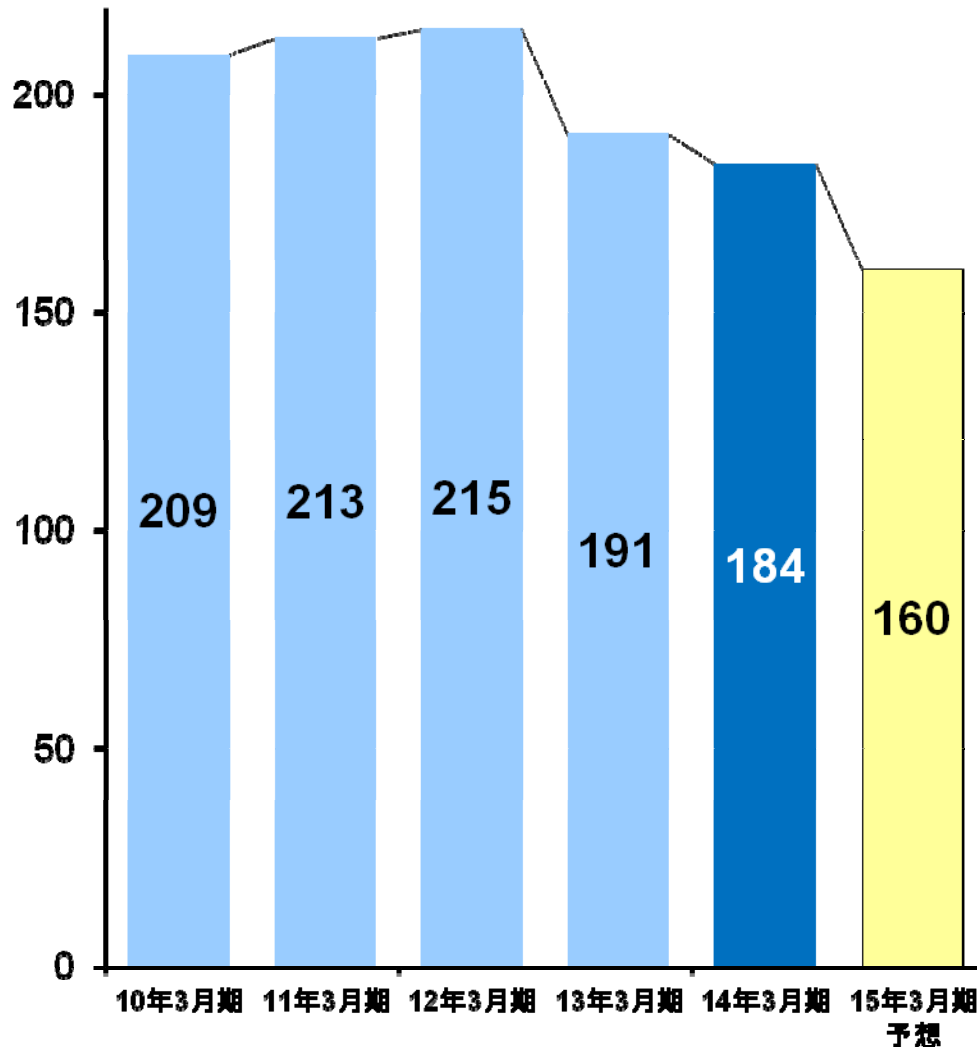
※薬価改定率(本体薬価ベース): ▲0.4%

注1,2(出典: Copyright 2014 IMS ジャパン(株) IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

【OAB: 過活動膀胱】 【BPH: 前立腺肥大症】

■先発品群 ムコダイン(気道粘液修復・粘膜正常化剤)

売上高 (単位:億円)



■2013年度の状況

●去痰剤市場 :約3%縮小

449億円(13年3月MAT) ⇒ 435億円(14年3月MAT) 注1

●ムコダインの売上シェア

46.9%(13年3月MAT) ⇒ 46.2%(14年3月MAT) 注2

ジェネリック(カルボシステイン)のシェア

6.3%(13年3月MAT) ⇒ 7.4%(14年3月MAT) 注3

■2014年度の取り組み

●「DS50%」の普及の最大化

・上気道炎を中心に小児・成人まで幅広く処方獲得

●エビデンスに基づく処方拡大

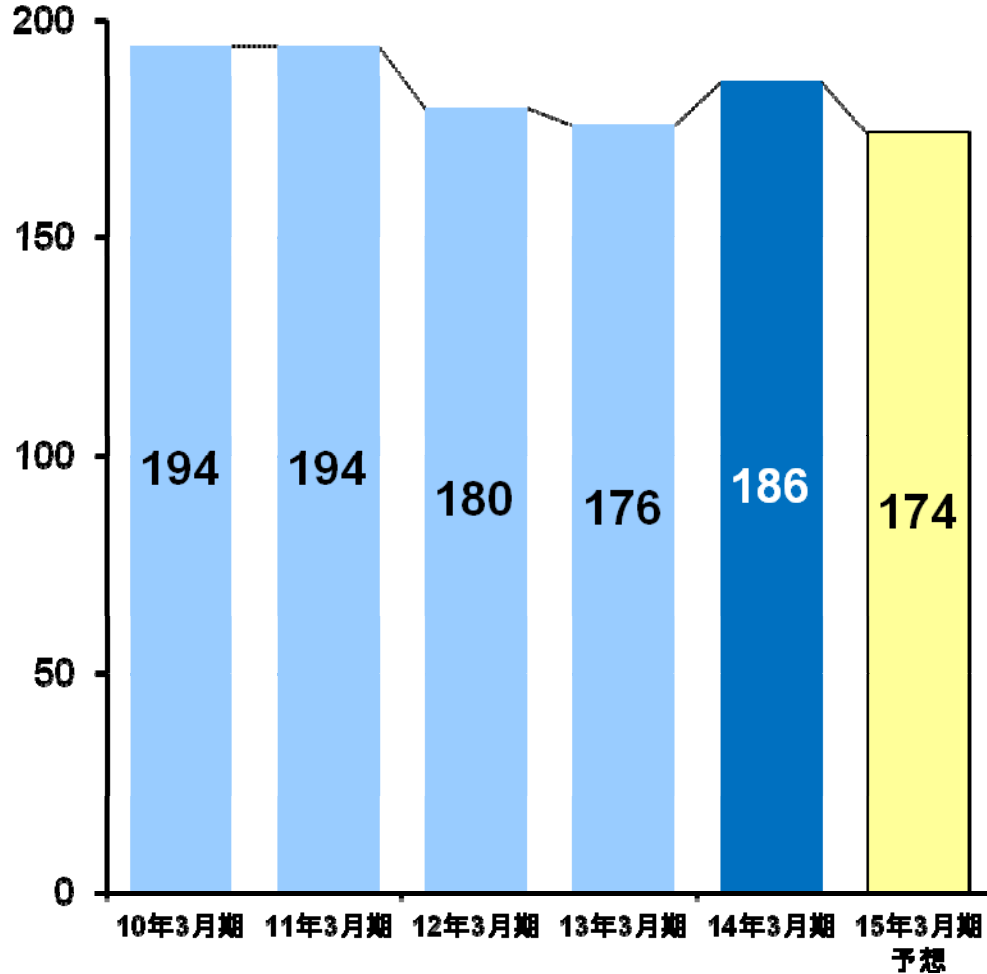
・気管支喘息、慢性気管支炎、慢性副鼻腔炎 等

※薬価改定率(本体薬価ベース) ▲6.9%

注1、2、3 (出典:Copyright 2014 IMS ジャパン(株) IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

■先発品群 ペンタサ(潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)

売上高 (単位:億円)



■2013年度の状況

- 市場(メサラジン製剤等) : 約12%拡大

338億円(13年3月MAT) ⇒ 379億円(14年3月MAT) 注1

- ペンタサの売上シェア

56.8%(13年3月MAT) ⇒ 52.7%(14年3月MAT) 注2

■2014年度の取り組み

- ペンタサ坐剤の市場浸透

13年度売上:12億円、14年度予想:15億円

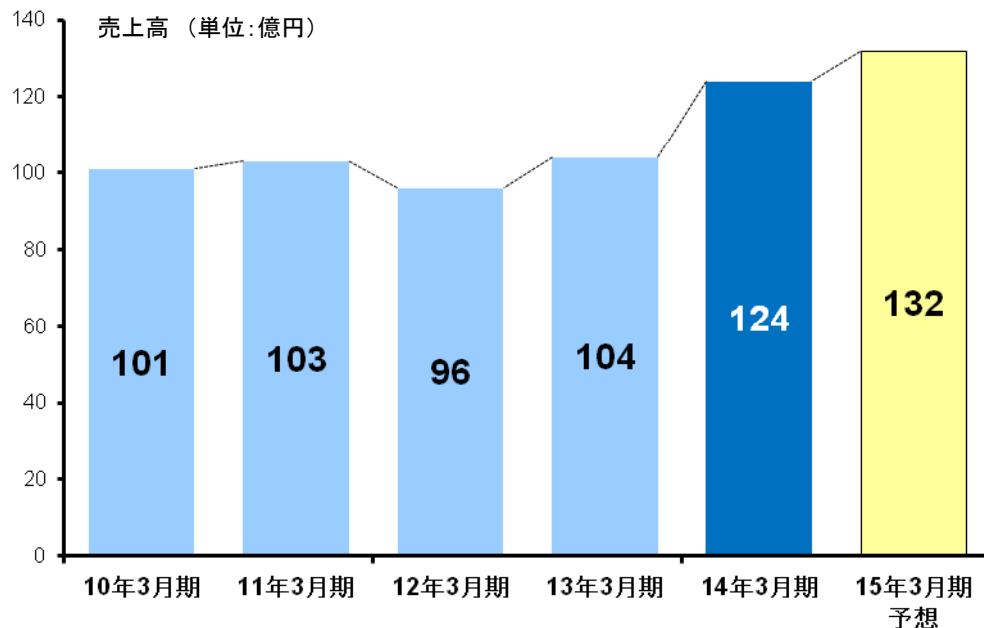
- 活動期潰瘍性大腸炎での処方獲得

・活動期:4g分2投与、寛解期:2g分1投与の訴求

※薬価改定率(本体薬価ベース) ▲7.5%

注1、2 (出典:Copyright 2014 IMS ジャパン(株)IMS -JPMをもとに作成 無断転載禁止)

■後発品群 キョーリン リメディオの状況



■2013年度の状況

●売上高：124億円(前年比+20億円)

- ・重点品、2013年度追補品の拡大
- ・受託生産の増加

●利益：10億円(前年比+6億円)

- ・共同開発によるR&D費削減

■2014年度の取り組み

➤主導的共同发展の推進

●売上高

- ・重点品及び大型追補品の売上拡大

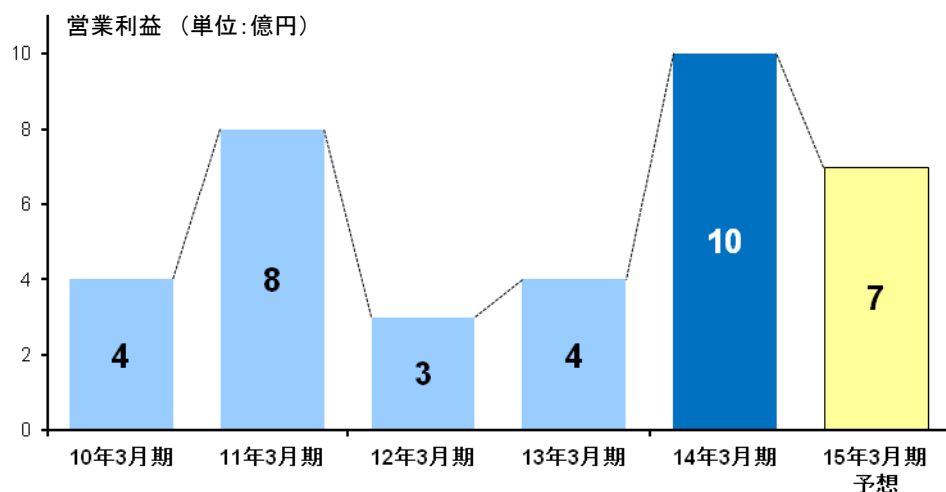
【重点品】ドネペジル、ピタバスタチン等

【追補品】バルサルタン錠、ロサルヒド配合錠

●利益

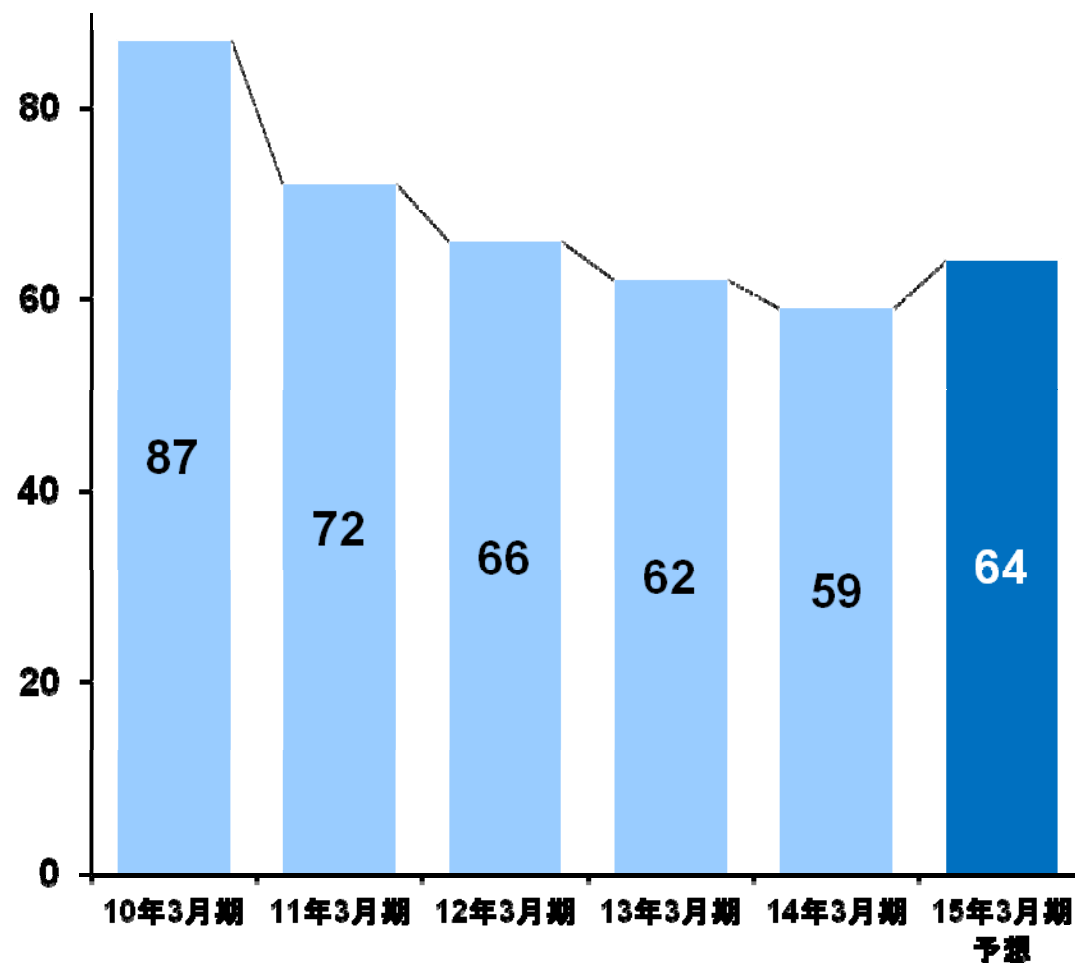
- ・共同開発の推進

自社主導の開発活動による費用の負担減、受託生産の促進



ヘルスケア事業(スキンケア＋一般用医薬品他)

売上高(単位:億円)



中期経営計画「HOPE100－ステージ1－」 の目指す方向

■ スキンケア事業

- ・収益事業化
- ・成長促進(含むアジア市場展開)

■ ミルトン事業他

- ・ミルトンブランドを活用した新たな事業展開

■ 新規事業

- ・企業理念を具現化する新規事業の拡充と育成
(環境衛生事業他)

環境衛生事業の取り組み

殺菌消毒剤「ミルトン」及び環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」の普及拡大を目指す

●殺菌消毒剤「ミルトン」

- ・産院プロモーションの強化（新規採用と母親教室での理解促進）
- ・医療機関における使用実態の把握と院内標準化（ルビスタとのダブルリテール）の推進
- ・2014年度 売上目標：20億円（2013年度実績：21億円）



●環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」

- ・採用施設の拡大及び使用量の増加（感染防止対策加算1、2施設※）
- ・自社製造への移管に着手
- ・2014年度 売上目標：7億円（2013年度実績：2億円）

※専任の院内感染管理者が配置され感染防止に係る部門を設置している等の要件を満たしている施設



●今後の取り組み









- ・製品ラインナップの拡充に努め、規模と収益性を見込める事業の構築を目指す
 - キョーリン感染症防護対策キット（13年7月発売）
 - ルビスタ嘔吐物処理キット（13年12月発売）



研究開発パイプラインの状況

開発パイプライン：2013年度の進捗状況

研究開発パイプライン全領域で着実に進展した

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認・上市
呼吸器	フルティフォーム					11月上市(56吸入)
	KRP-AB1102				3月申請	
	KRP-AB1102F			8月 Ph III 開始		
泌尿器	KRP-EPA605	10月 Ph I 開始				
	積極的な導入および共同研究					
耳鼻科	キプレス アレルギー性鼻炎(1~15歳未満)			4月 Ph III 開始		
	KRP-209					
感染症	KRP-AM1977X		9月 Ph II 開始			
	KRP-AM1977Y					
IBD	ペンタサ(UC)坐剤					6月上市
	KRP-203					

 2013年度の進捗状況

開発パイプライン：2014年度の取り組み(予定)

呼吸器、感染症領域において早期ステージアップを目指す

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認・上市
呼吸器	フルティフォーム					
	KRP-AB1102					
	KRP-AB1102F					
泌尿器	KRP-EPA605					
	積極的な導入および共同研究					
耳鼻科	キプレス アレルギー性鼻炎(1~15歳未満)					
	KRP-209					
感染症	KRP-AM1977X					
	KRP-AM1977Y					
IBD	KRP-203					

 2014年度の取り組み

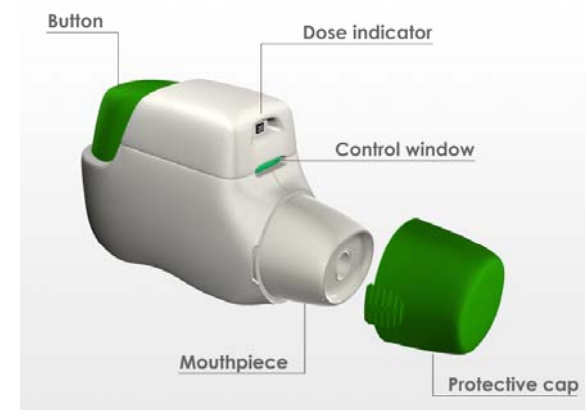
COPD治療剤「KRP-AB1102」

■KRP-AB1102

薬効： 長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA)
有効成分： アクリジニウム (Acclidinium Bromide)
剤型： Dry Powder Inhaler:ドライパウダー吸入器 (Genuair)
効能効果： 慢性閉塞性肺疾患(COPD)
用法用量： 1日2回
開発会社： Almirall,S.A.(スペイン)

特徴：

- ①アクリジニウムは血中において速やかに分解されることから高い安全性が期待される
- ②1日2回投与により1日を通して呼吸機能を改善しCOPD症状を緩和する
- ③操作が簡単で使いやすいデバイス(コンプライアンスの向上につながる可能性がある)



ドライパウダー吸入器：Genuair®

(参考)

■KRP-AB1102F

LAMAとLABA(長時間作動型β作動薬)の配合剤

LAMA:アクリジニウム
LABA:ホルモテロール

耳鳴治療薬「KRP-209」の状況

〔臨床試験の概要〕

- ・Ph II 臨床試験(二重盲検試験)
- ・対象: 自覚的耳鳴患者 症例数: 約400例
- ・投与回数: 1日2回投与
- ・評価項目: THI-12※など(投与開始時からの各評価時点における変化量)

※ THI: Tinnitus handicap inventory (耳鳴りの日常生活への支障度に関する質問票)

〔試験の結果〕

すべての評価項目で前値からの有意な改善効果は認められたが、プラセボ群との間に有意な差は認められなかった。

〔今後の対応〕

2015年3月期 第2四半期を目処に、今後の対応について意思決定したい。

2015年3月期
連結業績予想と配当

2015年3月期 連結業績予想

(単位:億円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期 予想	対前年	
			増減額	増減率(%)
売上高	1,114	1,122	+8	+0.7
医薬品事業	1,097	1,105	+8	+0.7
ヘルスケア(スキンケア)事業	17	17	0	-1.3
営業利益	176	158	-18	-10.3
経常利益	183	163	-20	-10.8
当期純利益	120	113	-7	-6.0

	予想	対前年	増減のポイント
売上高	1,105	+8	
国内新医薬品	921	+4	薬価改定の影響(杏林製薬:6%台)による売上減少はあるが、フルティフォーム等の売上拡大を見込む
海外新医薬品	10	-8	ガチフロキサシンの売上減少を見込む(現地売上:14年3月期 実績 \$61MM、15年3月期 予想 \$23MM)
後発医薬品	127	+7	他社受託ビジネスの拡大、使用促進策等の影響による卸店ルート(保険調剤薬局)の売上増加を見込む
一般用医薬品他	46	+4	ルビスタの売上伸長を見込む

営業利益	158	-18	<ul style="list-style-type: none"> ▶売上総利益 : 前年に対して、売上は増加するものの、原価率上昇(前年比約1%)により減少を見込む (原価率上昇要因: 薬価改定の影響 杏林製薬6%台、ガチフロキサシンの売上減少、後発品の売上増加)
			<ul style="list-style-type: none"> ▶R&D費: 11億円増加の125億円を見込む(開発パイプラインの進展 KRP-AB1102F、KRP-AM1977X等)
			<ul style="list-style-type: none"> ▶販管費(R&D費除く): 販管費率(R&D費除く)は、前年に対して約1%低下を見込む

2015年3月期 主要製品の売上予想

(単位: 億円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期 予想	対前年	
			増減額	前年同期比(%)
キプレス	402	403	+1	+0.4
ムコダイン	184	160	-24	-12.7
ペンタサ	186	175	-11	-5.8
ウリトス	81	82	+1	+2.1
フルティフォーム	6	28	+22	+390.3

株主還元について

基本方針

成長のための投資、事業継続のための投資、株主還元をバランスよく実施し、経営基盤の強化を図ります。株主還元は配当性向30%を目処に実施します。

当期純利益の推移

	2014年3月期 (予想)	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (予想)
当期純利益	124億円	120億円	113億円

配当の推移

	2014年3月期 (予想)	2014年3月期 (実績)※	2015年3月期 (予想)
1株当たり配当金	52円 (うち中間10円)	52円 (うち中間10円)	52円 (うち中間20円)
連結配当性向	31.2%	32.3%	34.4%

※期末配当42円につきましては、5月26日に開催される取締役会で決定する予定です

参考資料

損益計算書の概要：連結①

(単位：百万円)

	13年3月期		14年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	107,031	100.0%	111,400	100.0%	+4.1%	+4,368
医薬品事業	105,162	98.3%	109,678	98.5%	+4.3%	+4,515
◆新医薬品	90,686	84.7%	93,518	83.9%	+3.1%	+2,831
○国内	88,286	82.5%	91,668	82.3%	+3.8%	+3,382
○海外	2,400	2.2%	1,849	1.7%	-22.9%	-550
◆後発医薬品	10,095	9.4%	11,987	10.8%	+18.7%	+1,891
◆一般用医薬品他	4,379	4.1%	4,172	3.7%	-4.7%	-207
ヘルスケア事業	1,869	1.7%	1,721	1.5%	-7.9%	-147

<適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社8社： 杏林製薬株
 Kyorin USA, Inc. Kyorin Europe GmbH
 ActivX Biosciences, Inc.
 キョーリン リメディオ(株)
 キョーリン メディカルサプライ(株)
 ドクタープログラム(株)
 キョーリン製薬グループ工場(株)

持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

<当期のポイント>

■ 売上高 111,400百万円 (+4,368百万円)

●国内新医薬品 91,668百万円 (+3,382百万円)

	13.3実績	⇒	14.3実績	(億円)
・キプレス	396	⇒	402	(+ 6)
・ムコダイン	191	⇒	184	(- 7)
・ペンタサ	176	⇒	186	(+10)
・ウリトス	75	⇒	81	(+ 6)

- ・新製品の発売(ペンタサ坐剤、フルティフォーム)、
- ・ロイヤリティ収入(アイファガン)の増加、
- ・キョーリン製薬グループ工場の売上が年間寄与

●海外新医薬品 1,849百万円 (-550百万円)

・ガチフロキサシン 16 ⇒ 15 (- 1)

●後発医薬品 11,987百万円 (+1,891百万円)

- * 他社受託ビジネスの売上拡大、使用促進策の影響による卸店ルート(保険調剤薬局)の売上増加

●一般用医薬品等 4,172百万円 (-207百万円)

- * ルビスタの売上は伸長したものの、その他の売上が減少

●ヘルスケア 1,721百万円 (-147百万円)

- * 販路を通信販売に集中したため売上が減少

損益計算書の概要：連結一②

(単位:百万円)

	13年3月期		14年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	107,031	100.0%	111,400	100.0%	+4.1%	+4,368
売上原価	40,133	37.5%	43,047	38.6%	+7.3%	+2,913
売上総利益	66,897	62.5%	68,352	61.4%	+2.2%	+1,454
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	48,949 (11,059)	45.7% 10.3%	50,744 (11,359)	45.6% 10.2%	+3.7% +2.7%	+1,795 +300
営業利益	17,948	16.8%	17,607	15.8%	-1.9%	-340
営業外収益	790	0.7%	732	0.7%	-7.3%	-57
営業外費用	62	0.1%	59	0.1%	-3.9%	-2
経常利益	18,676	17.4%	18,281	16.4%	-2.1%	-395
特別利益	25	0.0%	237	0.2%	+829.3%	+211
特別損失	98	0.1%	205	0.2%	+108.0%	+106
税金等調整前 当期純利益	18,603	17.4%	18,312	16.4%	-1.6%	-290
法人税・住民税 及び事業税	5,869	5.5%	5,095	4.6%	-13.2%	-773
法人税等調整額	312	0.3%	1,191	1.1%	+281.6%	+879
当期純利益	12,422	11.6%	12,025	10.8%	-3.2%	-396

<当期のポイント>

◆原価率：前年比1.1ポイント上昇
(37.5%→38.6%)

【上昇要因】後発医薬品およびキョーリン製薬グループ工場の
売上増加による影響、為替の影響
【低下要因】ロイヤリティ収入(アイファガン)の増加等

◆研究開発費率：前年比0.1ポイント低下
(10.3%→10.2%)

* 111億円→114億円(3億円増加)
開発パイプラインの進展(主にKRP-209Ph2a等)

◆販管費率(除くR&D費)：前年比 横ばい
(35.4%→35.4%)

* 379億円→394億円(15億円増加)
販売費、特許等使用量等の増加

■営業利益 17,607百万円 (-340百万円)

* 営業利益率は15.8%と1.0ポイント低下

■当期純利益 12,025百万円 (-396百万円)

■配当

52円00銭/株(うち、中間配当10円/株)

配当性向32.3%

貸借対照表の概要：連結

(単位：百万円)

	13年3月期末	
	実績	構成比
流動資産	108,265	69.9%
現金及び預金	21,370	—
受取手形及び売掛金	46,555	
有価証券	11,667	
棚卸資産	19,938	
その他流動資産	8,733	
固定資産	46,702	30.1%
有形固定資産	18,209	—
無形固定資産	916	
投資その他	27,577	
資産合計	154,968	100.0%

流動負債	22,897	14.8%
支払手形及び買掛金	8,556	—
その他流動負債	14,341	
固定負債	2,970	1.9%
負債合計	25,868	16.7%
株主資本	126,985	81.9%
その他の包括利益累計額	2,113	1.4%
その他有価証券評価差額金	2,293	—
為替換算調整勘定	-180	
純資産合計	129,099	83.3%
負債及び純資産合計	154,968	100.0%

14年3月期末		
実績	構成比	前期末増減
121,638	71.8%	+13,373
31,017	—	—
44,123		
17,965		
21,699		
6,833		
47,740	28.2%	+1,037
20,841	—	—
1,198		
25,700		
169,378	100.0%	+14,410

28,401	16.8%	+5,503
11,056	—	—
17,344		
3,155	1.9%	+185
31,557	18.6%	+5,688
135,273	79.9%	+8,287
2,548	1.5%	+434
3,434	—	—
12		
137,821	81.4%	+8,722
169,378	100.0%	+14,410

<当期のポイント>

■ 流動資産：+13,373百万円

- ・現金及び預金の増加 (+9,646百万円)
- ・受取手形及び売掛金の減少 (-2,432百万円)
- ・有価証券の増加 (+6,297百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+1,761百万円)

■ 固定資産：+1,037百万円

- ・有形固定資産の増加 (+2,632百万円)
- ・無形固定資産の増加 (+281百万円)
- ・投資その他の減少 (-1,876百万円)

■ 流動負債：+5,503百万円

- ・支払手形及び買掛金の増加 (+2,499百万円)
- ・その他流動負債の増加 (+3,003百万円)

■ 固定負債：+185百万円

主な業績項目の推移：連結

(単位:百万円)	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期 (予想)
売上高 (海外売上)	99,764 (2,693)	104,069 (2,784)	103,232 (2,015)	107,031 (2,400)	111,400 (1,849)	112,200 (1,000)
売上原価 (売上原価率)%	37,477 (37.6%)	37,554 (36.1%)	36,926 (35.8%)	40,133 (37.5%)	43,047 (38.6%)	—
販売費及び一般管理費 (販管費率)%	49,025 (49.1%)	50,071 (48.1%)	51,842 (50.2%)	48,949 (45.7%)	50,744 (45.6%)	—
うち研究開発費 (研究開発費率)%	11,807 (11.8%)	12,495 (12.0%)	13,964 (13.5%)	11,059 (10.3%)	11,359 (10.2%)	12,500 (11.1%)
営業利益 (営業利益率)%	13,261 (13.3%)	16,443 (15.8%)	14,464 (14.0%)	17,948 (16.8%)	17,607 (15.8%)	15,800 (14.1%)
経常利益 (経常利益率)%	14,234 (14.3%)	17,110 (16.4%)	15,275 (14.8%)	18,676 (17.4%)	18,281 (16.4%)	16,300 (14.5%)
当期純利益 (当期純利益率)%	8,848 (8.9%)	10,927 (10.5%)	9,231 (8.9%)	12,422 (11.6%)	12,025 (10.8%)	11,300 (10.1%)
一株当たり当期利益(円)	118.37円	146.21円	123.54円	166.25円	160.95円	151.24円
資本金	700	700	700	700	700	—
総資産	137,190	147,234	145,673	154,968	169,378	—
株主資本	104,907	112,076	117,931	126,985	135,273	—
純資産	104,911	111,706	118,201	129,099	137,821	—
一株当たり純資産(円)	1,403.60円	1,494.83円	1,581.94円	1,727.86円	1,844.61円	—
自己資本利益率%	8.8%	10.1%	8.0%	10.0%	9.0%	—
自己資本比率%	76.5%	75.9%	81.1%	83.3%	81.4%	—
人員(人)	2,246人	2,294人	2,297人	2,444人	2,452人	—
設備投資	1,291	1,668	1,952	6,576	6,500	3,000
減価償却費	2,810	2,458	2,363	2,738	3,153	3,100

2014年3月期 セグメント情報

報告セグメントごとの売上高および利益

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	1,114	+44	176	-3
医薬品事業計	1,097	+45	170	-10
◆新医薬品	935	+28		
○国内	917	+34		
○海外	18	-6		
◆後発医薬品	120	+19		
◆一般用医薬品他	42	-2		
ヘルスケア事業計	17	-2	2	+4
調整額	-	-	5	+3

(注)「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用し、報告セグメントは【医薬品事業】【ヘルスケア事業】としております

損益計算書の概要：杏林製薬①

(単位:百万円)

	13年3月期		14年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	95,894	100.0%	97,662	100.0%	+1.8%	+1,768
医薬品事業	95,894	100.0%	97,662	100.0%	+1.8%	+1,768
◆新医薬品	88,975	92.8%	89,846	92.0%	+1.0%	+871
○国内	86,698	90.4%	88,196	90.3%	+1.7%	+1,497
○海外	2,277	2.4%	1,650	1.7%	-27.5%	-626
◆後発医薬品	4,116	4.3%	4,821	4.9%	+17.1%	+705
◆一般用医薬品他	2,802	2.9%	2,994	3.1%	+6.8%	+191

<当期のポイント>

対前年

- 売上高 97,662百万円 (+1,768百万円)
- 国内新医薬品 88,196百万円 (+1,497百万円)
 - 13.3実績 14.3実績 (億円)
 - ・キプレス 396 ⇒ 402 (+6)
 - ・ムコダイン 191 ⇒ 184 (-7)
 - ・ペンタサ 176 ⇒ 186 (+10)
 - ・ウリトス 75 ⇒ 81 (+6)
- 海外新医薬品 1,650百万円 (-626百万円)
 - ・ガチフロキサシン 16 ⇒ 15 (-1)
- 後発医薬品 4,821百万円 (+705百万円)
 - ・主にキョーリン リメディオ製品の売上増
- 一般用医薬品他 2,994百万円 (+191百万円)
 - ・ミルトン 20 ⇒ 21 (+1)

損益計算書の概要：杏林製薬一②

(単位：百万円)

	13年3月期		14年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	95,894	100.0%	97,662	100.0%	+1.8%	+1,768
売上原価	33,868	35.3%	35,119	36.0%	+3.7%	+1,250
売上総利益	62,025	64.7%	62,543	64.0%	+0.8%	+517
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	44,898 (10,733)	46.8% (11.2%)	47,175 (11,064)	48.3% (11.3%)	+5.1% +3.1%	+2,276 +330
営業利益	17,127	17.9%	15,368	15.7%	-10.3%	-1,758
営業外収益	1,100	1.1%	909	0.9%	-17.4%	-191
営業外費用	19	0.0%	46	0.0%	+144.9%	+27
経常利益	18,209	19.0%	16,230	16.6%	-10.9%	-1,978
特別利益	25	0.0%	235	0.2%	+833.7%	+210
特別損失	81	0.1%	52	0.1%	-36.3%	-29
税引前当期純利益	18,152	18.9%	16,414	16.8%	-9.6%	-1,738
法人税・住民税 及び事業税	5,635	5.9%	4,496	4.6%	-20.2%	-1,139
法人税等調整額	585	0.6%	1,094	1.1%	+86.9%	+509
当期純利益	11,931	12.4%	10,823	11.1%	-9.3%	-1,107

<当期のポイント>

- ◆原価率：前年比0.7ポイント上昇
(35.3%→36.0%)
【上昇要因】後発医薬品の売上増加による影響、為替の影響
【低下要因】ロイヤリティ収入(アイファガン)の増加
- ◆研究開発費率：前年比0.1ポイント上昇
(11.2%→11.3%)
* 107億円→111億円(4億円増加)
開発パイプラインの進展(主にKRP-209Ph2a等)
- ◆販管費率(除くR&D費)：前年比1.4ポイント上昇
(35.6%→37.0%)
- 営業利益 15,368百万円(-1,758百万円)
* 営業利益率は15.7%と2.2ポイント低下
- 当期純利益 10,823百万円(-1,107百万円)

貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位:百万円)

	13年3月期末	
	実績	構成比
流動資産	84,041	69.0%
現金及び預金	7,192	
売掛金	43,320	
有価証券	11,604	—
棚卸資産	16,615	
その他流動資産	5,308	
固定資産	37,840	31.0%
有形固定資産	11,340	
無形固定資産	284	—
投資その他	26,215	
資産合計	121,881	100.0%

14年3月期末		
実績	構成比	前期末増減
92,209	70.4%	+8,167
15,098		
40,133		
14,302	—	—
17,969		
4,705		
38,788	29.6%	+948
13,992		
385	—	—
24,410		
130,997	100.0%	+9,115

流動負債	16,880	13.9%
支払手形及び買掛金	5,445	
その他流動負債	11,435	—
固定負債	2,156	1.8%
負債合計	19,037	15.6%
株主資本	100,586	82.5%
評価・換算差額等	2,257	1.9%
純資産合計	102,844	84.4%
負債及び純資産合計	121,881	100.0%

20,446	15.6%	+3,566
7,473		
12,973	—	—
944	0.7%	-1,212
21,391	16.3%	+2,353
106,211	81.1%	+5,625
3,394	2.6%	+1,136
109,606	83.7%	+6,761
130,997	100.0%	+9,115

<当期のポイント>

■流動資産： +8,167百万円

- ・現金及び預金の増加 (+7,905百万円)
- ・売掛金の減少 (-3,186百万円)
- ・有価証券の増加 (+2,697百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+1,354百万円)

■固定資産： +948百万円

- ・有形固定資産の増加 (+2,651百万円)
- ・無形固定資産の増加 (+101百万円)
- ・投資その他の減少 (-1,804百万円)

■流動負債： +3,566百万円

- ・支払手形及び買掛金の増加 (+2,027百万円)
- ・その他流動負債の増加 (+1,538百万円)

■固定負債： -1,212百万円

主な業績項目の推移：杏林製薬

(単位:百万円)	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期 (予想)
売上高 (海外売上)	85,308 (2,563)	92,531 (2,642)	93,697 (1,904)	95,894 (2,277)	97,662 (1,650)	98,500 (800)
売上原価 (売上原価率)%	28,374 (33.3%)	31,227 (33.7%)	32,046 (34.2%)	33,868 (35.3%)	35,119 (36.0%)	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	43,795 (51.3%)	45,658 (49.3%)	47,679 (50.9%)	44,898 (46.8%)	47,175 (48.3%)	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	11,121 (13.0%)	11,867 (12.8%)	13,472 (14.4%)	10,733 (11.2%)	11,064 (11.3%)	11,800 (12.0%)
営業利益 (営業利益率)%	13,139 (15.4%)	15,645 (16.9%)	13,971 (14.9%)	17,127 (17.9%)	15,368 (15.7%)	14,300 (14.5%)
経常利益 (経常利益率)%	14,580 (17.1%)	16,729 (18.1%)	15,126 (16.1%)	18,209 (19.0%)	16,230 (16.6%)	14,900 (15.1%)
当期純利益 (当期純利益率)%	9,472 (11.1%)	10,732 (11.6%)	9,274 (9.9%)	11,931 (12.4%)	10,823 (11.1%)	10,400 (10.6%)
一株当たり当期利益(円)	127.54円	144.51円	124.88円	160.66円	145.74円	—
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	4,317	—
総資産	119,822	122,661	121,985	121,881	130,997	—
株主資本	95,384	95,719	101,652	100,586	106,211	—
純資産	95,505	95,573	102,177	102,844	109,606	—
一株当たり純資産(円)	1,285.95円	1,286.87円	1,375.79円	1,384.77円	1,475.82円	—
自己資本利益率%	10.3%	11.2%	9.4%	11.6%	10.2%	—
自己資本比率%	79.7%	77.9%	83.8%	84.4%	83.7%	—
人員(人)	1,724人	1,804人	1,798人	1,797人	1,780人	—
設備投資	1,051	1,019	1,425	1,507	4,763	1,500
減価償却費	2,198	1,968	1,790	1,743	1,743	1,800

2014年3月期実績と2015年3月期予想

(単位:百万円)

	13年3月期 (実績)	14年3月期 (実績)	15年3月期 (予想)	対前年	
				増減額	増減率(%)
売上高	107,031	111,400	112,200	+799	+0.7
医薬品事業	105,162	109,678	110,500	+821	+0.7
◆新医薬品	90,686	93,518	93,100	-418	-0.4
○国内	88,286	91,668	92,100	+431	+0.5
○海外	2,400	1,849	1,000	-849	-45.9
◆後発医薬品	10,095	11,987	12,700	+712	+5.9
◆一般用医薬品他	4,379	4,172	4,600	+427	+10.2
ヘルスケア事業 (スキンケア)	1,869	1,721	1,700	-21	-1.3
営業利益	17,948	17,607	15,800	-1,807	-10.3
経常利益	18,676	18,281	16,300	-1,981	-10.8
当期純利益	12,422	12,025	11,300	-725	-6.0

主な子会社の業績と予想

(単位:億円)

杏林製薬	2013年3月期	2014年3月期
売上高	959	977
営業利益	171	154
当期純利益	119	108

2015年3月期(予想)
985
143
104

キョーリン リメディオ	2013年3月期	2014年3月期
売上高	104	124
営業利益	4	10
当期純利益	5	6

2015年3月期(予想)
132
7
5

ドクタープログラム	2013年3月期	2014年3月期
売上高	19	18
営業利益	-2	2
当期純利益	-3	2

2015年3月期(予想)
17
0
0

2014年3月期 主要製品売上の状況

(単位:億円)

		10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期		15年3月期 (予想)
						実績	前同比(%)	
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	292	345	368	396	402	+1.5	403
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	209	213	215	191	184	-4.0	160
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	194	194	180	176	186	+5.3	175
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	37	55	63	75	81	+7.9	82
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	46	40	34	30	28	-6.0	25
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	—	—	—	—	6	—	28
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	22	22	17	16	15	-7.5	5
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	19	19	19	20	21	+0.5	20

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況(連結) *Kyorin*

健康はキョーリンの願いです。

(単位:百万円)

	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期		15年3月期 (予想)
					実績	増減比	
研究開発費	11,807	12,495	13,964	11,059	11,359	+2.7%	12,500
設備投資	1,291	1,668	1,952	6,576	6,500	-1.1%	3,000
減価償却費	2,810	2,458	2,363	2,738	3,153	+15.2%	3,100

設備投資の詳細 (実績/予想)

(単位:億円)

	13年3月期 (実績)	14年3月期 (実績)	15年3月期 (予想)
工場設備	46	19	16
管理・販売設備	14	7	7
研究用設備	5	39	7

開発品一覧①(2014年5月9日現在)

PhⅢ ~承認

※:前回(2014年3月期 第3四半期 2月4日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
※申請 (14年3月)	(欧州) アルミラール社 : 上市(12年9月) (アメリカ) フォレスト社 : 上市(12年12月)	KRP-AB1102 (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	アセチルコリン受容体拮抗作用によりCOPDに伴う呼吸困難、息苦しさなどの諸症状を改善する長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(アクリジニウム) ①全身性副作用が少ない ②1日2回投与により1日を通じて症状、呼吸機能改善 ③最大効果発現までの時間が短い ※吸入器: Genuairを使用	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)
PhⅢ (13年4月)		キプレス (チュアブル錠、 細粒)	気管支喘息治療剤	米国 メルク社	小児: アレルギー性鼻炎	新効能・効果 MSD(株)との共同開発
PhⅢ (13年8月)	(欧州) アルミラール社 : 申請(13年10月) (アメリカ) フォレスト社: 申請準備中	KRP-AB1102F (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA: アクリジニウム)と長時間作用性β2刺激薬(LABA: ホルモテロール)の配合剤	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)

開発品一覧②(2014年5月9日現在)

POCプロジェクト(Ph I ~Ph II)

※:前回(2014年3月期 第三四半期 2月4日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (11年8月)	Ph III ムツ社	KRP-209	耳鳴	ドイツ ムツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	ムツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph II (13年3月)	Ph II (POC) (10年12月) ハルティス	KRP-203	自己免疫疾患 臓器移植 IBD	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調節剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ハルティスとライセンス契約 (06年2月) 新たなライセンス契約 IBD(10年11月)
Ph II (13年9月)		KRP-AM1977X (経口剤)	ニューキノロン系 合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待	
Ph I (12年7月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	ニューキノロン系 合成抗菌剤	自社		
Ph I (13年10月)		KRP-EPA605	過活動膀胱治療剤	自社	プロスタグランジンEP1受容体拮抗作用を有し、膀胱の排尿筋過活動を抑制することにより頻尿の改善が期待される	キッセイ薬品工業(株)との共同開発

※医療上の必要性の高い未承認薬・適外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」(対象疾病:間質性膀胱炎)について開発を進める予定

- 潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ坐剤1g」: 2013年6月発売
- 過活動膀胱治療剤「ウリトス」: 2013年7月韓国で発売(鐘根堂)
- 喘息治療配合剤「フルティフォーム」: 2013年11月発売

■将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。